

職務執行の状況報告

理事長 小野寺 眞 悟
業務執行理事 小野寺 裕 司

平成29年度の本法人に係るこれまでの間の職務執行状況につきまして、平成29年度第6回理事会(平成30年1月24日開催)で次としてご報告いたします。

1 定款の変更について

一般財団法人小野寺眞悟障がい者スポーツ振興会(以後、「小野寺眞悟スポーツ振興会」という。)の目的は、北海道の特別支援学校のスポーツ振興に関する事業を行い、障がいのある児童生徒の心身の健全な発達に寄与することです。

理事長は、長年、障がいのある人々の生活支援や就労支援などを行う二つの社会福祉法人(明日佳及び長沼陽風会)の理事長を務めております。そこでは、毎日、障がいのある人たちと接して、特に就労継続支援 A 型や、それを通して一般就労した人たちの多くが、特別支援学校の部活動等でスポーツ活動をしていたことを知りました。彼らは、このスポーツ活動により、強い体と他人と仕事を円滑に進めるための協調性、仕事を貫徹するための強い意思・意欲が養われていることに気付きました。

理事長は、このことから、障がいのある人たちが、地域の中で自己実現を果たすための就労生活を、より一層、円滑・円満に推進するためには、何よりも北海道の各特別支援学校で行われるスポーツ活動を活発化して、児童生徒の心身を鍛えることが重要と考え、この「小野寺眞悟スポーツ振興会」を、平成28年7月に設立し、本年10月に定款を変更して、本道特別支援学校のスポーツ振興等を目的とした事業を行うことといたしました。

2 平成29年度事業の推進

「小野寺眞悟スポーツ振興会」は、法で定められた定款に基づいて運営しております。定款では、「小野寺眞悟スポーツ振興会」は、特別支援学校のスポーツの活発化を図るため、①フットサル等スポーツ活動の普及 ②フットサル等競技会の開催・助成 ③フットサル等スポーツ活動の調査・研究④その他、必要な事業を行うこととしています。このため、29年度は次を行っています。

(1) スポーツ用品を寄贈

平成29年度は、「小野寺眞悟杯フットサル大会」開催に向けて、各校でフットサル等の練習をしてもらうため、知的障がい特別支援学校を主に室内用ポップアップゴールとフットサルボールを寄贈しました。平成29年度は35校にポップアップゴール39

セット、ボール 65 個を寄贈しました。



開会式の全景

(2) 小野寺眞悟杯北海道特別支援学校フットサル大会を開催

第 1 回小野寺眞悟杯北海道特別支援学校フットサル大会は、平成 29 年 7 月 28 日、北海道青少年会館で開催しました。第 1 回大会は、単置高等部校を対象に、北海道特別支援学校と韓国の特別支援学校、計 18 校、約 150 名の生徒が参加しました。

本財団は、札幌市から離れた学校には、都市間バスの往復分を助

成し、かつ開会式開始に間に合わない学校の前泊宿泊と、閉会式後に各地にもどることができない学校には後泊宿泊を助成しました。特別参加の韓国安東市では TV ニュースでこの大会の様子が放送されました。

大会では、北海道白樺高等養護学校が優勝、準優勝は北海道高等聾学校、第 3 位は市立札幌豊明高等支援学校と韓国安東栄明学校でした。また優秀選手のベスト 5 は、若野翔太君(市立札幌豊明高等支援学校)、ヤン ドンウォン君(韓国済州特別自治道知的障がい蹴球団)、澤田惲怒君(北海道白樺高等養護学校)、ジョ ヒョンシン君(韓国安東永明学校)、中川 聖君(北海道高等聾学校)が選ばれ、フェアプレーに徹した選手を賞する小野寺眞悟賞は、山本 隼君(北海道函館五稜郭支援学校)と二川日菜さん(北海道中札内高等養護学校幕別校)に贈られました。生徒の皆さんには今後も期待しています。

(3) エスポラータ北海道の選手 OB を各校に派遣

平成 29 年度は、北海道今金高等養護学校及び北海道紋別高等養護学校、北海道稲穂高等支援学校、北海道札幌伏見支援学校もなみ学園分校、北海道稚内養護学校、北海道十勝管内高等支援学校 3 校フットサル大会(北海道中札内高等養護学校、同校幕別校、北海道新得高等支援学校)に、社会



北海道紋別高等養護学校生徒と地域児童の交流

福祉法人明日佳及び長沼陽風に勤務しているエスポラータ北海道選手 OB(吉田順省氏、笠間慎也氏、市場大資氏)を、フットサル指導員として派遣しています。各校では、自校の授業や部活動、また地域活動で本事業を活用し、自校の生徒や教諭だけではなく、地域の人々のためにも大変に有効であったと評価されています。

(4) フットサル指導者研修会を開催

平成 29 年 3 月、北海道青少年会館で寄宿舍指導員と教諭を対象としたフットサル指導研修会を開催しました。30 名が参加し、北海道フットサル連盟常務理事荒川浩幸氏からフットサルルールの講義、また本法人フットサル指導員の吉田順省氏と笠間慎也氏による実技指導が行われました。参加者からは、「学校に戻って研修の成果を還元したい」「いつでもどこでもできるスポーツなので、寄宿舍の日中活動に取り入れたい」等の感想が聞かれました。平成 30 年 3 月の第 2 回研修会では、この研修会を踏まえて、本財団が助成している北海道八雲養護学校で工夫されているスティック競技も報告してもらおうこととしております。

(5) スポーツ活動に対する研究助成と研究紀要を発刊

平成 29 年度、北海道紋別高等養護学校は「外部指導者の活用や指導方法の工夫」、北海道稚内養護学校は「知的障がい特別支援学校でのフットサル指導の実践と可能性」、北海道中札内高等養護学校は「高等養護学校のフットサル指導における実践と工夫」をテーマに実践研究を進めております。平成 30 年 3 月、これら研究成果を収録した研究紀要を発刊するとともに、この研究成果を広げるための研究成果報告会を、上記の第 2 回指導者研修会と併せて、平成 30 年 3 月 17 日(土)、札幌市で開催します。各校校長が認めた参加希望者には、移動費と宿泊費を助成します。

(6) 北海道八雲養護学校へのスポーツ活動を助成

北海道八雲養護学校は、主に筋ジストロフィの児童生徒が学んでいる学校です。同校は、併設の病院に入院している卒業生と、電動車いすとスティックを用いる独自のスポーツ活動を創意・工夫しています。この工夫・開発を行うための助成と共に、同校には研究紀要の表紙のデザインや小野寺眞悟杯フットサル大会のポスターのデザインを通じたスポーツ活動等への参画をお願いしております。

3 今後について

平成 29 年度も残すところわずかではありますが、来年度の事業の円滑なる推進に向け、北海道特別支援学校校長会等と連携を深め、特に平成 30 年 7 月 27 日(土)、札幌市真駒内セキスイハイムアイスアリーナで、単置高等部校及び併置校の 2 カテゴリーで「小野寺眞悟杯フットサル大会」を開催するなど、道内特別支援学校のスポーツ振興が、より一層、推進するよう努めてまいります。